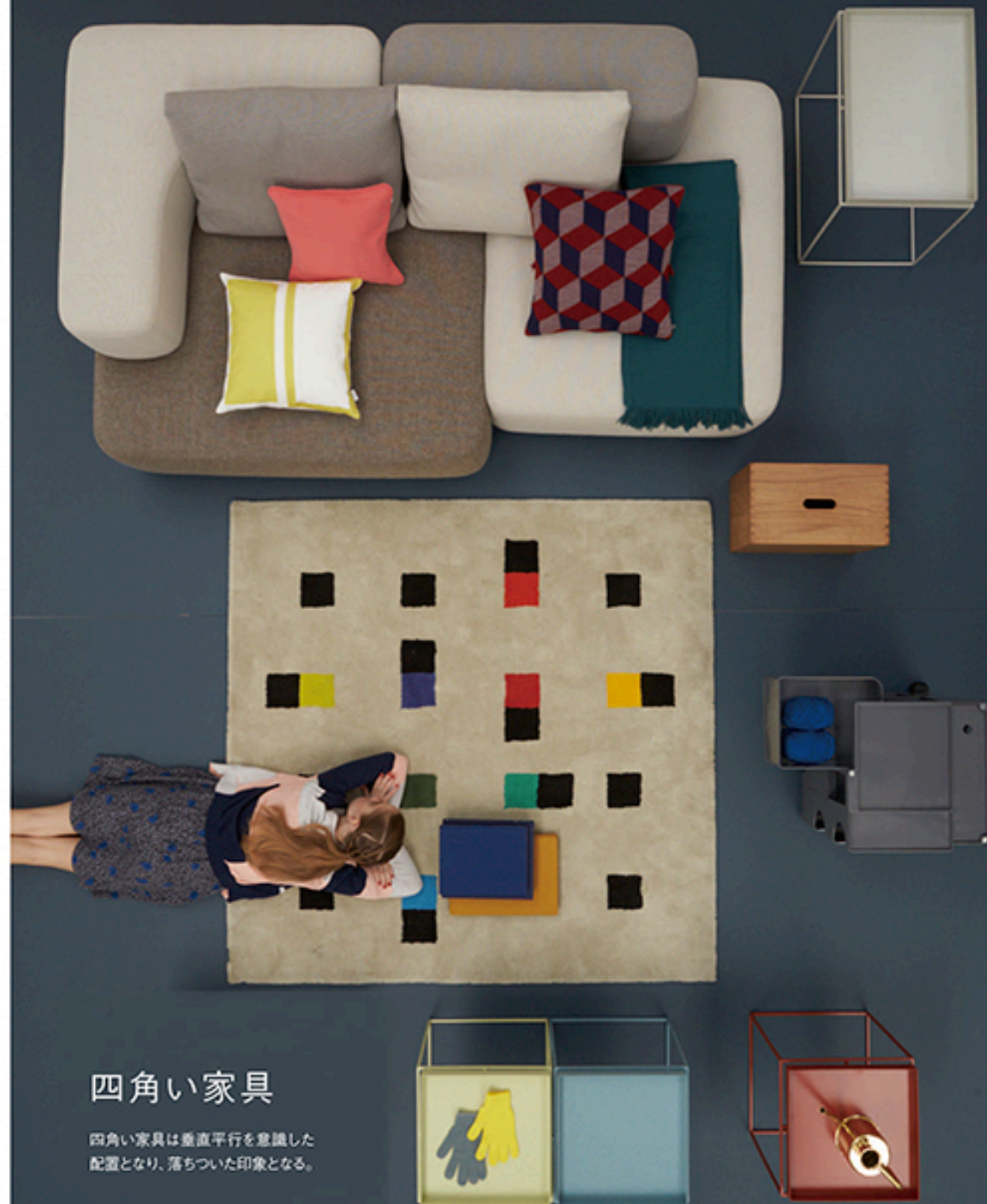


## クリエイターの 住まい

イギリス、イタリア、フィンランド。今回はヨーロッパの3世帯のお部屋をご紹介します。どの部屋もD.I.Y.を駆使して、心地よい住まいに実感を込めている。どう暮らしたいのかを徹底的に考え、住み手のこだわりがたっぷり詰まった内装の数々。住まい方のヒントがきっと見つかるはずだ。





## 四角い家具

四角い家具は垂直平行を意識した配置となり、落ち着いた印象となる。

フリッツ・ハンセン「アルファベットソファ」79万8120円※リビング・モティーフ、クッション左から1万2960円※ハーマンミラーストア、ピンクのクッションカバー7236円、グリーンのスローケット3万4560円※ともにザ・コンランショップ、ニットのクッションカバー1万1880円※バザー・エ・ガルド・モンジェ、ウツのstuhl「LC14 MAISON DU BRESEL」19万7200円※カッシーナ・イクスシー青山本店、ボビーワゴン2段2トレイ4万1040円、マックス・ビル ラグ「カラフルアクセント(1600角)」5万9400円※ともにメトロクス、トレイテーブル長方形3万6720円、正方形各3万1320円※以上すべてヘイ・ジャパン、じょうろ1万7820円※ザ・コンランショップ、モデル専用のワンピース9612円※ビープル・ツリー、カーディガン2万3760円※トリコチ



## 丸い家具

丸い家具は配置の自由度があり、全体的に優しい印象になる。

FREDERICIA 2シーターソファ「HAIKU」80万7840円〜※スカンジナビアンリビング、ラウンジチェア「GRAY08」21万6000円〜、陶器stool「INOUT44」(ドット/ボーダー)7万2000円※ともにジェルバゾーニジャパン、ジラード カラーホイールオットマン33万4800円、クッション1万2960円※以上すべてハーマンミラー ストア、ピンクのテーブル「SLIT TABLE」2万9160円※ヘイ・ジャパン、パオラ レンティサールラグ「ZOE」36万8660円〜※アルフレックスジャパン、時計1万5660円、ピンクのボルスターカバー8316円、マグカップ1944円※以上すべてザ・コンランショップ、ピンクのボウル 2万3760円※リビング・モティーフ、モデル専用のワンピース9612円※ビープル・ツリー、カーディガン2万3760円※トリコチ

## キッチンの動線は三角！ ワークトライアングルを学ぼう

キッチンで作業する際、シンクと冷蔵庫と調理家電を三角形に配置すると使いやすいと言われている。ここでは、最近増えてきたアイランド型など、キッチンのタイプ別に作業動線を紹介する。

Text=ロロ編集部 LORO Magazine

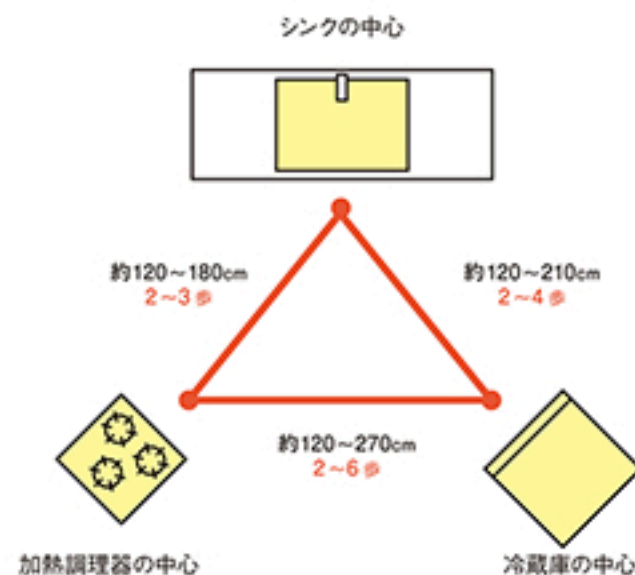
### ●ワークトライアングル

「シンクを中心」「冷蔵庫を中心」「加熱調理器を中心」を頂点とする三角形をワークトライアングル(作業の動線)といい、その配置により作業効率に変化がでる。短すぎると配膳スペースや調理スペースが不足し、長すぎると無駄な動きが多くなる。ここではその最適法を学ぼう。

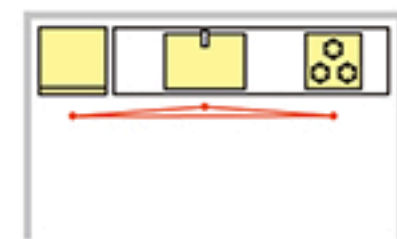
1. 「シンクを中心」から「冷蔵庫を中心」までの距離—約120~210cm  
2~3歩
2. 「シンクを中心」から「加熱調理器を中心」までの距離—約120~180cm  
2~3歩
3. 「冷蔵庫を中心」から「加熱調理器を中心」までの距離—約120~270cm  
2~6歩

3辺の総和は約360~600cm

6~12歩

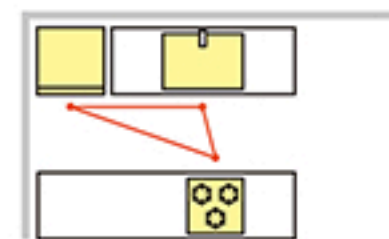


### ●タイプ別



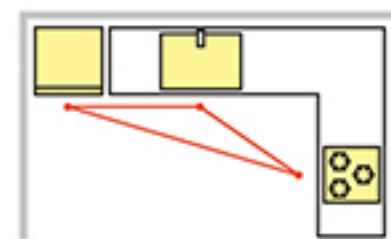
I型

三角形が作られず、動線が1本の線になり、そこを行き来することになるが、270cmくらいなら適正な長さといえる。



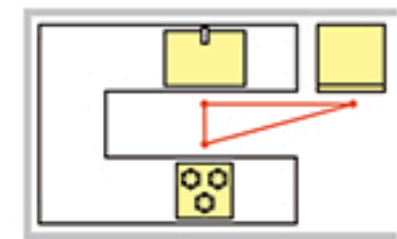
II型

独立型の昔から多くみられるキッチンのタイプ。動線が短く使いやすい。収納量も多くとることができる。



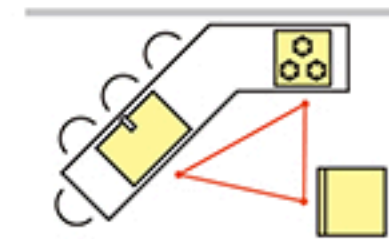
L型

冷蔵庫とコンロが遠い狭いキッチンによく使われる。コーナー部分は奥行きが深くなるので、デッドスペースになりがち。



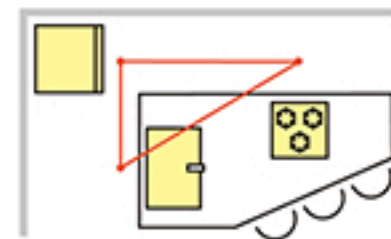
U型

U字の中心部分にシンクを配した、非常に使いやすい配置。コンロ部分をセミオープンにするタイプも増えている。



ペニンシュラ型

壁に沿って配置せず、室内へ半島(ペニンシュラ)のように突き出したレイアウト。動線もとても使いやすい。



アイランド型

キッチンに人がたくさん立つ場合、とても便利なタイプ。シンクと加熱調理機までの動線が少し長いのが難点。



## 制約の中でデザインする際

## ○△□の幾何学の組み合わせは非常に有効だった

バウハウスとは、1919年ドイツ・ヴァイマルに設立された近代産業と芸術の融合をめざし総合的な教育を行った学校である。量産化かつ素材を無駄なく使うのに、丸三角四角という形は、非常に有効的だったと考えられる。

Photo=青木健悟 AOKI Takenori(WPP) Text=ロロ編集部 LORO Magazine



1923年ドイツの造形学校バウハウスで制作された積木の複製版を、技術の高さを認められたスイス・ネフ社がバウハウス財団に依頼され製作。丸三角四角を中心としたパーツを組み合わせることで融通性も空間が生まれる。スイス・ネフ社「バウハウス パウスビル」(価格1万9440円税別アトリエ ニキティキ東京ミッドタウン店の現在のパッケージは一体型)。

## 三井デザインテックがナビゲート デザインから感じる ホテルの魅力

宿泊施設という空間の魅力デザインという視点から読み解くと、  
その快適さの秘密がよくわかるもの。今回は、「余白」  
そして「間」の使い方が魅力的なホテルと旅館をご紹介します。

Photo=新谷義久 KUMAGAI Yoshihisa (WPP)  
Text=吉田洋 YOSHIDA Kei

### 「余白」 その存在の意味

ホテルのデザインとは「余白」をデザインすること。  
「余白」は「空白」とも言い、単に白く残った部分ではなく  
意図して「白」を設けた場所。  
人と人との間には時に言葉が在り、  
また時には沈黙が言葉以上に必要なものとして存在します。  
ホテルという空間では言葉には表れず、  
沈黙は余白とも言えるでしょう。  
故に「余白」とはデザインの本質の一つであり、  
空間においても大切な存在なのです。



【ナビゲーター】  
三井デザインテック  
荒瀬仁之  
ARASE Hitoshi

三井デザインテックにて、ホテルの空間プロ  
デューサーとして活躍する。これまでに  
携わったホテルは日本各地に及び、デザ  
インや設計にも造詣が深い。自らもデザ  
インを手掛けながら、ホテルのインテリアを  
数多くプロデュースしている。



ロイヤルメール(イギリスの郵便局)が、20世紀のイギリスのアイコン的なデザインを10点選び、「英国を代表する10のデザイン」として発売した切手。車、飛行機、ファッションなど様々なイギリスから生まれたデザインが収められ、本誌では見逃せない照明とチェアも含まれている。イギリスの暮らしを支えた重要なアイテムだ。右はマリークワントのミニスカート、左はロンドン名物のダブルデッカー・バス。




## イギリスと暮らす

クラシック&モダンが混在するイギリス。ただ両極端でなく、お互いが歩み寄り、少し離れたりするその距離感を楽しめるところがイギリスの面白さではないだろうか。イギリスメイドのモノと一緒に過ごせば、感覚的にこの国がわかってくるはず。イギリスの今を見るインテリアをご覧あれ。

Text=ロロ編集部 LORO Magazine Royal Mail/Press Association/アフロ

イギリスのミッドセンチュリーを牽引した、ロビン・デイがデザインした右のポリプロピレン製の通称ポリプロップ・チェアは、1963年生産以来2000万脚以上を出荷するほどの傑作。下はその先駆けとなった、1952年に発表されたホームユース用の「675チェア」。価格5万9400円 80フライミー



1934年にジョージ・カワードインがデザインしたアングロポイズのランプも英国を代表するデザイン10選に。左のモデルを復刻したのが、下の「Original 1227」だ。2009年、その誕生75周年を記念して再発売した。価格4万3200円 80リンインクープ



Concorde/初飛行が1961年の超音速飛行を追求した、まことに美しいデザインの旅客機だった。



London Underground Map/ハリ・ベックがデザインしたロンドンの視覚的な交通の驛路。



K2 Telephone Kiosk/街の路に佇む真っ赤な電話ボックス、ロンドンのアイコン的な小さな場所。



Mini/小型大衆車としてのミニマムデザインは、世界的に大反響を与えたカタチだった。



Supermarine Spitfire/第二次世界大戦においてイギリス空軍を始めとする連合軍でも使用された。



Penguin Books/1935年にペーパーバックで文芸出版のあり方に大きな革命を起こした。



# Japan Made, Japan Brand

ご自宅に家紋はありますか？黒紋付きの着物以外、核家族化した都市部ではあまり重要視されなくなってきましたが、どの家にもまず間違いなく家紋はあるはずです。ではここで問題。日本国政府の家紋、つまり紋章は何でしょうか？最近テレビでよく目にする総理演説の演台にチラチラ見え隠れしていますが、それは「五七の桐」と呼ばれる桐紋です。室町幕府の時代にはすでに小判などに刻印されていた紋章で、以来、皇室を始め多くの政府が使用してきました。現代の日本政府もその一つです。そういえば500円硬貨も桐の絵ですよね。そんな日本の伝統ともいえる桐を使った家具作りは昔から、新潟県でも盛んでした。米と酒、そして金属製品で有名な新潟県ですが、実は家具作りは昔から産業として確立されています。中でも伝統的な桐箆箱は、加茂市を中心に隆盛を誇った時期もありました。今号ではそんな新潟の桐を使った家具、そして城下町長岡で代々続く建具屋さんの家具作りを追いかけてみることにしましょう。

【特集】

伝統と革新  
デザインが変えた  
新しい家具の形  
〈新潟県・加茂市／長岡市〉



Photo=藤田智昭 Tsunoda Tomoaki (WPP)  
Text=Loro編集部 Loro Magazine  
協力=NIOO(公財)にいがた産業創造機構

### 3. 野村木工所



### 2. イシモク



### 1. 浅野タンス



03

## Carl Hansen &amp; Søn Flagship Store

<http://www.carlhansen.jp/>

創業100年を超える歴史のあるデンマーク家具メーカー、カール・ハンセン&サンから1954年にデザインされたシグネチャーチェアが復刻。フリッツ・ヘニングセンのキャリアの集大成とも言える作品であり、コンフォートと優雅さを重視しているとてもソフトで温かなフォルムだ。



店内のスタイリングはノルウェーのデザインを発信するブランド「ノルウェー・アイコンズ (NORWEGIAN ICONS)」のペベ・トルセン氏が行った。

04

## 町田ひろ子プロ展「MARIAGE」

<http://interiorcoordinate.jp/item/item-mariage>

1978年日本で初めて「インテリアコーディネーター」を提唱し、アカデミーの校長を務める町田ひろ子氏が東洋医学の五行相性「水」「木」「火」「土」「金」をモチーフに新作を発表した。東洋の五行相性をとり入れた鎌倉彫と、金と銀のカードボード折込オブジェによる「MARIAGE」融合をテーマに、置くだけで存在感が漂い心を癒す作品だ。

06

## LCI照明 at Greenhouse

1976年に創設されてから進化を続けるメイド・イン・イタリアの照明、LCI照明のショールームが秋のデザインウィーク期間限定で現れた。力士からインスピレーションを受けた「スーモ」や、天体のつる座を想い起こされる「グルース」などシンボリックなデザインが特徴的でもあり、大胆な素材使いや最新のLED技術にも注目だ。



05

## POP UP SHOP

Designed by Paola Navone



パオラ・ナヴォーネの作品を集めたポップアップショップが青山のコスチューム・ナショナルラボに登場。GERVASONIのアートディレクターを初めとし、様々なブランドを手がける彼女の世界感がここに集約された。店内に入った時の美しいブルーグラデーションに包まれる感覚が忘れられない。

TOKYO  
DESIGN  
WEEK  
2015

## 2015東京デザインウィーク

今年も都内のいろいろな場所で開催されたデザインウィーク。アートにデザインに、興味津々のスタッフが歩き回って発見した次世代のデザイン潮流をレポートします！

Photo &amp; Text=山田優幸 YAMADA yuri

01

## arflex×ミロコマチコ「たいようのねっこ」

<http://www.arflex.co.jp/mirocomachiko/>

これまでに、様々なアーティストとのコラボレーションを企画してきたarflexでは今回、絵本作家で画家のミロコマチコさんがアルフレックスの家具や空間をキャンバスに、独自の世界観を創りだした。中でも、最新パーソナルソファ「GIULIO」「MONICA」をキャンバスに制作された作品は見事な集中力で一気に描き上げたという。店内にちりばめられた作品がエネルギーで魅力的な空間を演出していた。



02

## 「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH」つみきのひろば

—ディレクション 隈研吾 他3組のアーティスト—



建築家 隈研吾氏がディレクションを手がける展示が、ミッドタウンの広場で行われていた。同じ形をした大小様々な「積み木」が3人のクリエイターの手により姿を変え、子どもから大人まで身体を使って楽しめる空間になっていた。たった1つの形から発生する様々なアイディアに大きな可能性を感じる。

